



# LDAP システムの設定

Cisco Unified CallManager Release 5.0 以降では、ディレクトリを設定を次の 3 つの関連ウィンドウで行います。

- [LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)]
- [LDAP ディレクトリ (LDAP Directory)]
- [LDAP 認証 (LDAP Authentication)]

LDAP ディレクトリの情報と LDAP 認証の設定値を変更できるのは、お客様の LDAP ディレクトリからの同期化が [Cisco Unified CallManager の管理] の [LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)] ウィンドウで使用可能にされている場合のみです。

管理者は、このウィンドウを使用して LDAP 同期化を使用可能にし、LDAP サーバのタイプ、およびユーザ ID の LDAP 属性名をセットアップします。



(注)

DirSync サービスの LDAP ディレクトリ設定が作成されるか、LDAP ユーザの認証が有効になると、[LDAP システム情報 (LDAP System Information)] ウィンドウにある設定値は読み取り専用になります。

LDAP システムの情報を設定するには、次のトピックを参照してください。

- [LDAP システムの情報の更新 \(P.12-2\)](#)
- [LDAP システムの設定値 \(P.12-3\)](#)

## 追加情報

[P.12-4 の「関連項目」](#) を参照してください。

## LDAP システムの情報の更新

LDAP システムの情報を更新する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

このウィンドウにある [LDAP サーバからの同期を有効にする (Enable Synchronizing from LDAP Server)] チェックボックスの設定によって、管理者がエンドユーザに変更を加えられるかどうかが決まります。LDAP の同期化はエンドユーザにのみ適用され、アプリケーションユーザには影響しません。LDAP の同期化の詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の P.20-1 の「ディレクトリの概要」を参照してください。

エンドユーザ データに関して、企業ディレクトリから同期される属性を管理者が [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで更新することはできません。これらの属性は、企業ディレクトリ自体の内部でのみ更新できます。更新された後に、再同期化を実行する必要があります。



(注)

企業ディレクトリとの同期化が発生する前に Cisco Unified CallManager データベースにエンドユーザが存在している場合、それらのエンドユーザは削除されます。Cisco Unified CallManager がすでに他のタイプのサーバと同期されていた場合、既存のユーザは [削除の処理待ち] ステータスになります。これらのユーザは、夜間に動作するガーベッジコレクタプログラムによってデータベースから削除されます。

### 手順

- ステップ 1 [システム] > [LDAP] > [LDAP システム] の順に選択します。
- ステップ 2 適切な設定値を入力します (表 12-1 を参照)。
- ステップ 3 [保存] をクリックして、変更内容を保存します。

### 追加情報

P.12-4 の「関連項目」を参照してください。

## LDAP システムの設定値

表 12-1 では、LDAP システムの設定値について説明します。関連する手順については、P.12-4 の「関連項目」を参照してください。

表 12-1 LDAP システムの設定値

フィールド	説明
<b>[LDAP システム情報 (LDAP System Information)]</b>	
[LDAP サーバからの同期を有効にする (Enable Synchronizing from LDAP Server)]	<p>お客様の LDAP サーバからのデータ同期化を使用可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>LDAP サーバとの同期化を使用可能にすると、次のような状態になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>管理者は、企業ディレクトリと同期されないフィールド（属性）を除いて、エンドユーザデータの内容を変更できません。エンドユーザデータの例としては、ユーザの PIN などがあります。ただし、アプリケーションユーザデータの内容はいつでも変更することができます。</li> <li>管理者は、LDAP ディレクトリの情報を変更することができます。</li> <li>管理者は、LDAP 認証の情報を変更することができます。</li> </ul> <p>LDAP サーバとの同期化を使用可能にしない場合（同期化が無効になっている場合）は、次のような状態になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>管理者は、LDAP ディレクトリの情報を変更できません。</li> <li>管理者は、LDAP 認証の情報を変更できません。</li> </ul>
[LDAP サーバタイプ (LDAP Server Type)]	<p>LDAP サーバとの同期化が使用可能になっている場合は、このドロップダウンリストボックスで次のいずれかを選択できます。お客様の LDAP サーバのタイプに該当する値を選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[Microsoft Active Directory]</li> <li>[Netscape or Sun ONE LDAP Server]</li> </ul>
[ユーザ ID 用 LDAP 属性 (LDAP Attribute for User ID)]	<p>LDAP サーバとの同期化が使用可能になっている場合は、ユーザ ID の LDAP 属性値を選択できます。ドロップダウンリストボックスから、次のいずれかの値を選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[Microsoft Active Directory] の場合： <ul style="list-style-type: none"> <li>— [sAMAccountName]</li> <li>— [mail]</li> <li>— [employeeNumber]</li> </ul> </li> <li>[Netscape or Sun ONE LDAP Server] の場合： <ul style="list-style-type: none"> <li>— [uid]</li> <li>— [mail]</li> <li>— [employeeNumber]</li> </ul> </li> </ul>

## 関連項目

- [LDAP システムの設定 \(P.12-1\)](#)
- [LDAP システムの情報の更新 \(P.12-2\)](#)
- [LDAP システムの設定値 \(P.12-3\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「ディレクトリの概要」
- [LDAP ディレクトリの設定 \(P.13-1\)](#)
- [LDAP 認証の設定 \(P.14-1\)](#)
- [アプリケーションユーザの設定 \(P.86-1\)](#)
- [エンドユーザの設定 \(P.87-1\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「アプリケーションユーザとエンドユーザ」